

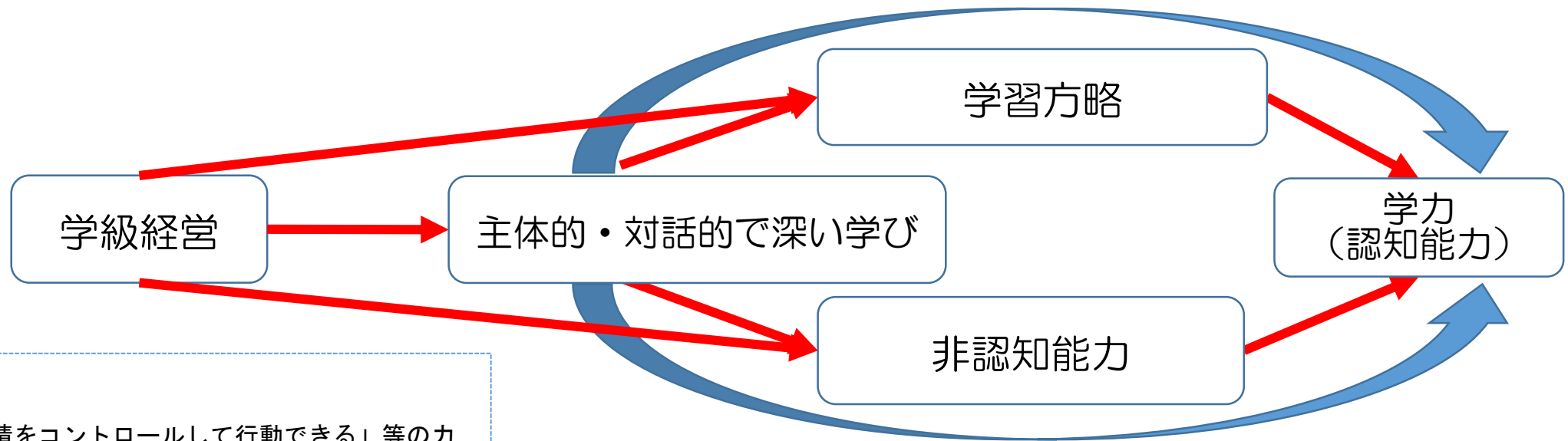
# 1 これまでの分析結果概要（平成28年度～令和元年度）

「主体的・対話的で深い学び」の実施に加えて、「学級経営」が子供の「非認知能力」「学習方略」を向上させ、子供の学力向上につながる

<分析結果でわかってきたこと(ダイジェスト)>

- ① 「主体的・対話的で深い学び」の実施に加えて良い学級経営（落ち着いた学級づくり）が、非認知能力や学習方略を向上させ、子供の学力向上につながっている
- ② 保護者や地域の方々が積極的に諸活動と関係している学校は、良い学級経営（落ち着いた学級づくり）を実現している傾向
- ③ 「主体的・対話的で深い学び」の実現には、「授業に対する教員の意識変容」と「専門的な指導を受けながらの継続的授業改善」が重要
- 新④ 学力や学習方略が伸びた子供は教員との関係性が良い傾向**
- ⑤ 毎年毎年の子供たちの非認知能力を高めることが、学力の維持向上に重要
- 新⑥ 学級内における周囲との学力差は学力や非認知能力の変容に影響する**

新④、⑥: 令和元年度データ活用事業の分析により新たに分かったこと



<参考>  
○非認知能力  
例えば「自分の感情をコントロールして行動できる」等の力  
○学習方略  
例えば「計画的に学習する」等の学習方法や態度